

MONTHLY MAGAZINE 2002年12月1日発行 毎月1回1日発行 第43巻 第12号 通巻499号 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可

# KOBE CCO

December 2002 **12**

月刊 **神戸っ子** Vol.499



素描 百合〈女のいる風景〉 石阪春生

特集 ● 神戸ルミナリエ・まちを包む光  
● 初詣——年初の祈り——  
提言座談会 ● 兵庫・神戸のグランドビジョン〈女性が輝く街神戸〉

PEARL COMMUNICATION



kinoshita  
pearl

パールサロン神戸

神戸市中央区山本通1-7-7(北野坂)

TEL.078-221-3170

FAX.078-221-9427



KINOSHITA PEARL

X'MAS SALE

12/1 sun. — 25 wed.

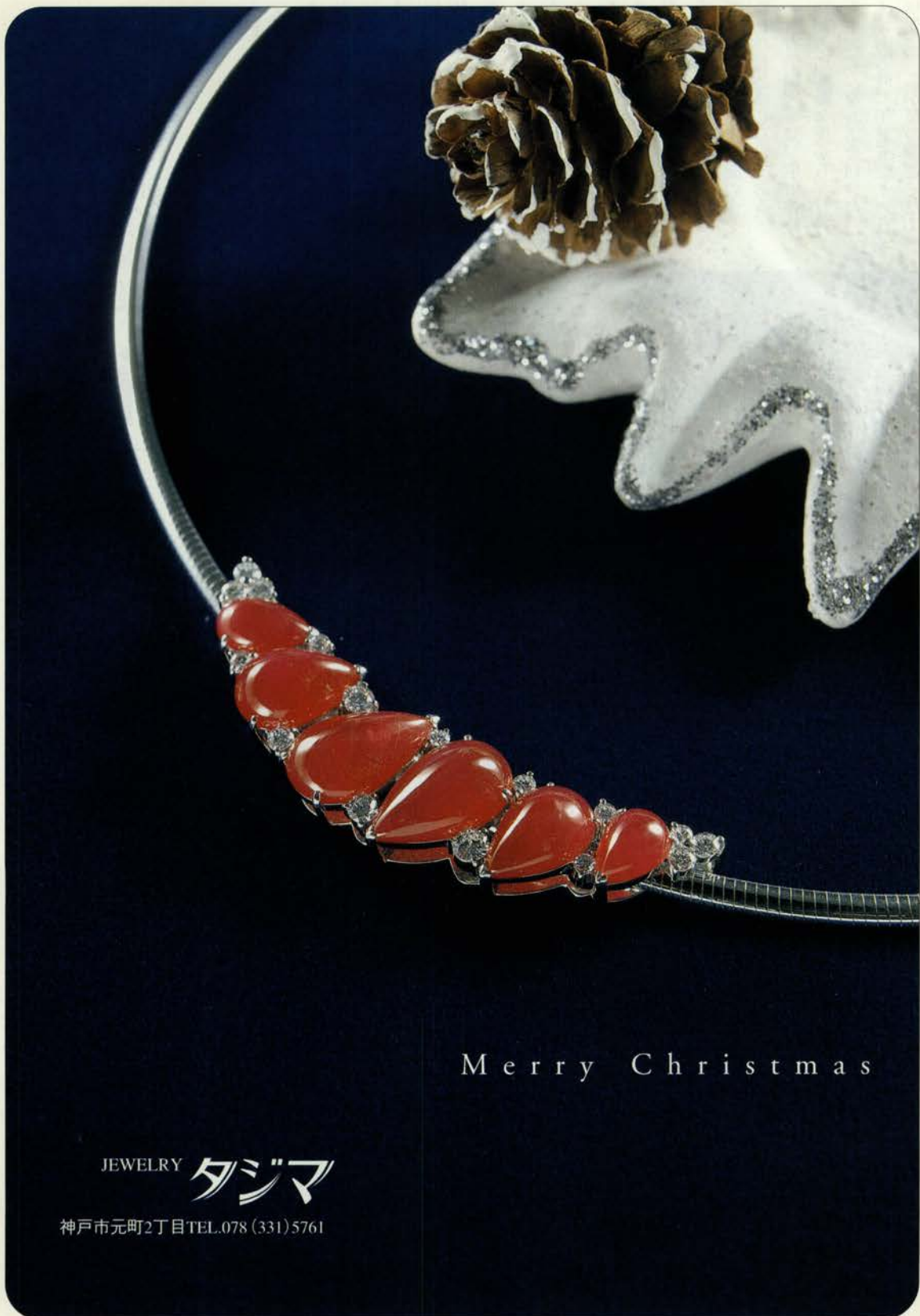
AM10:00 - 6:00PM

(期間中の金・土曜日/AM11:00 - 7:00PM)

木下真珠パールサロン神戸

神戸市中央区山本通1-7-7(北野坂)

TEL.078-221-3170 FAX.078-221-9427



Merry Christmas

JEWELRY **タジマ**

神戸市元町2丁目TEL.078 (331)5761

# 学校法人 行吉学園学園長 行吉哉女先生百賀を祝う

## 行

吉哉女先生がこのたび百歳という誠におめで

たい齢を迎えられ、さる十一月十一日行吉学園主催によるお祝いの会が、貝原新理事長就任披露の会と併せ、来賓、同窓会、教職員など約五〇〇名参加のもと開催された。その長い道のりの中、教育の場で現役として活躍され、世のため、人のために尽くし続けてこられたことは誠に稀有であり、つい先頃も、遠山敦子文部科学大臣より私学振興に大いに貢献したとして感謝状を授与された。その偉大さは光り輝き、敬意と感謝の念をひしひしと感じるのである。

行吉学園理事で、生田神社宮司の加藤隆久氏から、行吉先生のこんなお話を伺った。

——ある時、午前五時という早朝に、私が祭の参籠でたま



(上) 百賀を祝う会にて貝原俊民理事長、加藤隆久理事らに囲まれた行吉先生(右) 遠山文部科学大臣より感謝状を受け取る行吉先生



行吉哉女 ゆきよし・かなめ

明治36年12月17日岡山県赤磐郡瀬戸町に生まれる。大正15年1月、試験検定により師範学校・中学校・高等女学校の教員免許状(裁縫科)取得。大正15年3月、岡山県瀬戸高等女学校教諭。昭和15年11月、行吉学園創立・神戸新装女学院創設。昭和25年3月、神戸女子短期大学長。昭和41年3月、神戸女子大学長。昭和54年1月、学校法人行吉学園理事長。現、学校法人行吉学園学園長。現、学校法人行吉学園理事



たま神社の清掃をしていると、拝殿の石段の下で履物を脱ぎ、神前の冷たい石畳の上に正座され、ひれ伏しておられるご婦人の姿を見た。近づいてみるとそれは何と行吉哉女先生であった。先生は、毎日毎日寒い冬の日も、暑い夏の日もほとんど欠かさずお参りされていたのだ。「先生、何を毎日お祈りしておられるのですか」とお尋ねすると先生は、「氏神様とご先祖様に感謝のお祈りを捧げると共に、世界の平和と日本の安泰、そして行吉学園の学生の健康と無事、教育を全うできることを神様にお願しているのです」と答えられた。私はそのお姿に深い感銘を受け、その時からますます行吉哉女先生への尊敬の念が益したのである。

「これまでの私の歩みを振り返ると、天職である先生の道は、私にとっていつも夢に満ちて楽しく、まるで花に包まれていたようでした」と語る行吉先生。これからも、お心もお体もお健やかでお過ごし下さい。

# 百

先生は私の天職です



方々のお力に助けられて、今日まで歩み続けることが出来ました。いくら感謝しても感謝し切れるものではありません。今後とも教育への夢を貫き、なお一層推し進めて、そのご

えて、それをやります。ですから、いままでを振り返って何が一番嬉しかったか、と聞かれても「みな嬉しかった」と言うよりほかないのです。欲が深いと言いましようか。

せん。夢を心に抱いて前身あるのみです。行吉先生の著書「敬と愛―ひたすらの道―」より 百歳を迎えられた今、そこには貫かれた一途な思いを感じる。

**教** 育は私の天命です。先生を志してから、ひたすら、この道を進んで来ました。宇宙万物、国土、社会の恵を受け、父母、先生のいくしみを頂き、さらに多くの

恩にお応えしたいと思っております。私は何かしようと思ったら、ただ一途にやります。一生懸命やって、それができたら、「ああ、よかった」と思つて、またつぎのことを考

望みが大きいと言いましようか、ただただ、まっしぐらに前進するだけなのです。時代に遅れぬよう心掛けていきますが、さりとて新しいもの好きかという点、そうでもありません。

# 賀

女 行吉哉

情水てよー  
曇りてもよし  
有土の山



風景は人の思い出の歴史です。いつか出会った風景、想像の中に在る風景—今回の作品展では、それぞれの記憶の中に思い描く樹を選び、造花師の樹木への愛しい想いが数千枚の花びら、葉となり、1本の樹の生命を創りました。樹木の1年間の生命のサイクル—芽が出て、つぼみをつけて、花が咲き、実がなる—そのあらゆる姿を1本の樹に創り込んだ生命の樹を創りたい、風・光・色を感じる中に林立する風景を展開したいと、会場中央に透明のビニールを敷きつめて湿地帯のイメージをつくり、背景に鏡を配して背丈より高い樹木を置きました。生きていない作りものの木々は、虚構の自然の中で、スポットライトを浴びながら造花師たちの生命を得て不思議な美を表現していました。

## 記憶風景—樹木に生命を創る—

タマコオリジナルフラワースタジオ 作  
(構成・作品指導／太田タマコ)



ラボルテホールにて

太田タマコ おおたたまこ  
1939年西宮市生まれ。関西学院大学美学科在学中より木村喜多子に師事。美術造花の世界に入る。岸田今日子主演「詩と造花の世界」はな・おんな・けし、嵐徳三郎主演「王女メデア」、花・世紀末「サロメ」などの造花舞台を企画・演出。「谷崎潤一郎の世界」、「花想像美術館」、「源氏物語」などさまざまなテーマの作品展を開催。1984年ブルーメール賞ファッション部門受賞。若屋にタマコオリジナルフラワースタジオを開設、現在16名の生徒たちとともに、2年に1度造花展を開催している。





## 秋

晴れの11月21日  
(水)、長きに渡り

大勢にご参加頂いております、神戸ユネスコWHGチャリティ・コンペの第16回目が開催されました。神戸ユネスコ協会副会長加藤義雄氏(国際支援活動委員会委員長)の主催で、アジアの発展途上国に井戸を掘ったり診療所設立や世界遺産保護に協力するため、発足した会です。

パーティーは「健康づくりをしながらひとのために役に立とう」という人達が集い、爽やかな笑顔と朗らかな、そして高らかな笑い声に彩られておりました。異業種の方々が会話を弾ませ、お互い力を貸し合おうと名刺等を交換し、盛んな交流がありました。当日は神戸メリケンパークオリエンタルホテル3Fのジャマイカンピットにて行われ、シヨーンには「想い出のメロディーなら何でも」というコンビ、ザ・ポテトチップスさんがボランティアで来て下さいました。本当に楽しい時間を



神戸ユネスコWHG会  
チャリティ・コンペ

世界平和を愛する  
人々の輪を  
広げてゆきたい

過ごし、充実感と幸せに溢れておりました。

これも若手スタッフ、池原 聡・加藤憲一郎・西勝・西尾 幸三・長井章泰・大亀元各氏らの活躍の賜です。

協賛頂いております各社様

神戸メリケンパークオリエンタルホテル  
六甲国際ゴルフ倶楽部

お肉とお魚 わかまつチエーン

ゴルフ練習場 サン・ヴェール(長田)

小料理 のちぎく(北野)

焼き鳥 とり裕(三宮)

上村企画

自動車・ゴルフ保険21コーポレーション

株式会社 松屋家具店(兵庫)

株式会社 パバックス

有限会社 北川石材店(北区)

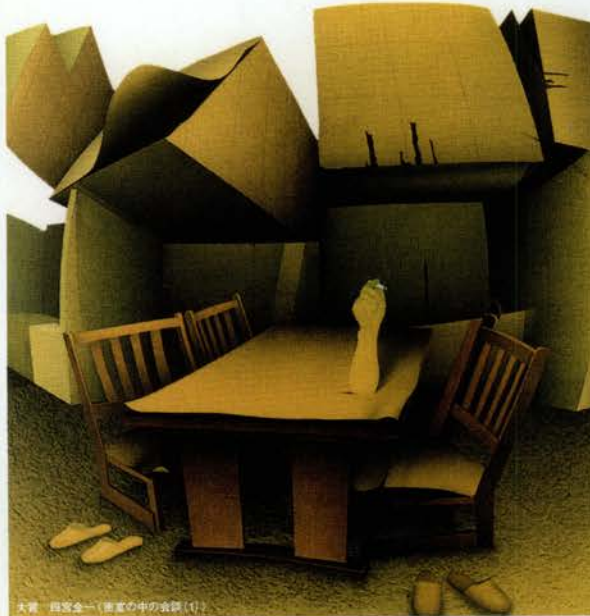


第6回

# 小磯良平大賞展

同時開催

小磯記念美術館  
収蔵作品展Ⅳ



大賞 収蔵金一(食堂の中の会談(1))

2002年12月7日[土] →  
2003年2月9日[日]

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
 休館日 毎週月曜日(ただし、12月23日、1月13日は開館)、  
 12月24日、12月28日～1月4日、1月14日  
 入館料 当日:一般200(160)円、高大生150(120)円  
 小中生100(70)円  
 ( )内は30名以上の団体料金  
 交通 JR住吉駅、阪神魚崎駅のりかえ、六甲ライナー  
 「アイランド北口」駅下車すぐ  
 駐車場 地下に市営駐車場(有料)あり

## 神戸市立小磯記念美術館

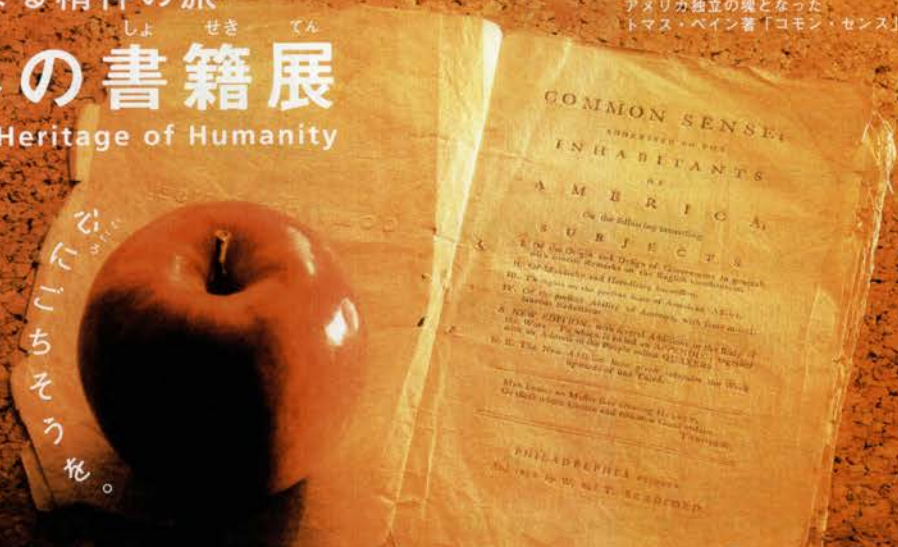
Kobe City Koiso Memorial Museum of Art

神戸市東灘区向洋町中5丁目7 TEL. 078-857-5880

[http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso\\_museum/](http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso_museum/)

ゆたかなる精神の旅  
 世界の書籍展  
 Books — Heritage of Humanity

アメリカ独立の礎となった  
トマス・ペイン著「コモン・センス」初版本



2002年12月12日[木] → 2003年1月19日[日] 入場無料

## 関西国際文化センター

神戸市中央区浜辺通6-3-16 TEL.078-265-0860  
[www.sokagakkai.or.jp/tenji/](http://www.sokagakkai.or.jp/tenji/)

- 休館日 / 12月16日、12月24日、1月6日、1月14日(12月28日から31日)は休館
- 開催時間 / 午前10時から午後5時まで(入場は午後4時30分まで)
- 主催 / 創価学会「世界の書籍展」神戸展実行委員会
- 後援 / (社)日本ユネスコ協会連盟・印刷博物館・(財)紙の博物館・兵庫県書店商業組合・神戸新聞社・サンテレビジョン・AM神戸・(財)東京富士美術館



「凍れる樹」和紙ちぎり絵 田中悠子

# KOBECCO

No.499 DECEMBER 2002  
月刊神戸っ子12月号目次

これは神戸を愛する人の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です

表紙=石阪春生「素描 百合(女のいる風景)」

## 特集 神戸ルミナリエ・まちを包む光

- 20 神戸ルミナリエ
- 22 クリスマスの夜を彩る聖夜の招待券

## 特集 初詣 「年初の祈り」

- 34 2003年初詣ガイド
- 4 行吉哉女先生百賀を祝う
- 34 特別インタビュー 「彫刻の果たす使命」  
新谷琇紀 (彫刻家)
- 34 特別インタビュー 「パティシエへの道」  
植木砂織 (神戸国際調理師専門学校学園長)  
インタビューアール=ジベール・小泉由紀子
- 52 提言座談会④こどもたちに残す神戸  
「兵庫・神戸のグランドビジョン  
女性のかがやくまちに」  
清原桂子 田中裕子 小川千賀子 榎本靖子 村山順子

## series

- 6 Prisme des Art 18 「記憶風景」 太田タマコ
- 16 神戸JC先輩・後輩対談③福井有×キラン・S・セティ
- 55 エッセレ・バンビーノ 神戸のクラシックカー⑤  
「ちいさなブンブン丸」

## series

- 11 私の意見
  - 12 KOBECCO2002 吉松陽子/上田真知夫
  - 14 コウベスナップ
  - 18 ひと・場面1
  - 30 神戸のお嬢さん 古高義子さん/榎本紘子さん
  - 44 ひと・場面2
  - 56 話題の広場
  - 58 海船港
  - 60 神戸のモダンリビング 瀬戸本淳
  - 61 神戸のアーバンデザイン 高田昇
  - 62 次代を創る神戸のニューリーダー③青山一
  - 64 はるにゃんのHYOGO WALK
  - 66 有馬歳時記
  - 68 イベントスケジュール
  - 70 神戸の本棚
  - 71 神戸のジュークボックス
  - 72 ポケットジャーナル
  - 74 ぴっといん
  - 76 竹久夢二 愛・旅・恋ものがたり  
「エピローグ」 夢二ゆかりの方の聞き書き 中右瑛
  - 78 連載エッセー/コーヒーカップの耳⑥「営業マン」今村欣史
  - 80 神戸っ子倶楽部法人会員ニュース
  - 82 パーラー北野 「北野国際芸術祭」 「CAP HOUSE」
  - 84 神戸百店会
  - 85 神戸うまいもん&ドリンキング
- 写真=米田定蔵 池田年夫 松原卓也 米田英男

●成功譚より失敗談

# 甘い記憶にご用心

山口一史

ラジオ関西社長

A M神戸・ラジオ関西は今年4月に開局50年を迎えた。これも熱心にラジオを聴いてくださるリスナーの皆さん、スポンサー、そして地域社会全体の応援があつて実現したことと心からお礼を申し上げたい。

こうした節目の年に当たること、昔のことをいろいろと尋ねたり調べたりする機会が増えた。AM神戸のコールサインの「JOCR」の「C」は、全国の民放で3番目に免許が付与されたことを示している。ちなみに1番は「JOAR」の現中部日本放送、2番目は「JOBR」の現京都放送である。

開局当時のラジオ局は本当にすごい努力を重ねていた。番組の基本形は、いま主流の生ワイド番組以外は、ほとんどそのころ発想されていた。大阪には広域免許の局があり、テレビ時代も迫っていたので、厳しい競争を切り抜けるには知恵が勝負と、次々とアイデアを具体的な番組に高めていった。

長くAM神戸の看板番組となった電話リクエストも開局の年に開発した番組だった。野球の中継もそうだった。いわばラジオ界初の試みが連続して実っている。番組がきっかけとなってヒットしたレコードもあった。

こうした成功例は甘い記憶とともにだれの脳裏にも残るのである。しばしば話題になる。ところが、である。

ヒットした「電リク」も、いつの日かから、定番の一等席の座を他の番組に譲ってしまっているのだ。時代の流れの中で常にある話である

だ。衰退や失敗や敗北したケースは、無意識のうちになんかなくなるだけ記憶の外におきたいと願うからだろうか。そんな事柄はたちまちのうちに、形も内容もおぼろげになってしまい継承もされない。

21世紀の神戸づくりも、自虐的にする必要はないが、過去のよいところ



やまぐちかずふみ  
1941年、神戸市生まれ。親子3代以上続く神戸っ子。64年神戸大学文学部卒業、同年神戸新聞社入社。経済部長、論説委員、情報科学研究所長などを経て、神戸新聞文化財団常務理事、ラジオ関西常務。99年から現職。

が、なぜ「電リク」が番組表から姿を消したのかを覚えていて、成功例とともに、その終息をつまびらかにする人、できる人は少ない。

企業体であれ、地域社会であれ、国であれ、多くの人に心地よい話は努力をしなくとも語り継がれていく。ところがその反対も必ずあるの

ろばかりを浮き上がらせても、将来に向かつてあまり意味はない。過去を生かすという視点から考えれば、むしろ忘れてしまっていることを発掘する方が効果は大きいように思える。

さて、どんな失敗があつたかを探し出すのがひと仕事であるが…。

# 心のリアリティを描く

吉松陽子

画家

これまで、女性ばかりを描き続けてきた吉松さん。モデルなしで、頭の中にあるイメージだけをキャンパスに描いている。見てもらった人からは、よく「幻想的な」という形容詞をつけてもらっている。

「今の世の中を見ていて、だんだんと乾いた社会、自分の感情を出さないような社会になってきているよう

に感じるんです」と、さびしそうに語る。「だから、昔の情緒といわれるような、弱々しい、物憂い、か弱い、物思いにふけっているような感じではなくて、心がストリートに出てきているような新しいものに取り組んでいるんです」彼女のストリートな思いが、物腰の柔らかい言葉に乗って伝わってくる。

「そんな世の中に生きていくけれど、絵画は社会の問題点を提示するものでもなければ、それに回答を与えるものでもない。しかし、自分の心のどこかに引っ掛かった何かが核となり、作品になっていく。だから、幻想的ではあっても自分の心にあるリアリティが作品となっていくんです」。自分自身がおもしろく制作活動に打ち込んでも、そのリアリティというものがなければ見てもらった人にインパクトを与えられないし、人の足を止めることができないという彼女の考えが、これまでも、またこれからも制作していくエネルギーになっていくのだろう。「私の絵を見てどういう風にも感じてもらえるかな分らないけれど、絵に見方などないので、一度見てもらいたい。なにより若い人にぜひ見てもらいたい」彼女の思いの入った絵をぜひ多くの人にみてもらいたい。

## 最終的に「音楽が好き」

上田真知夫

ボーカル・ギター・ピアノ

神戸の老舗クラブ『薔薇と薔薇』等でピアノの弾き語り演奏を行なっている。「基本的にはお酒と会話を楽しむ場で、あえて生演奏をするわけですから、ライブとはちがうアレンジやテクニクが必要になる。まったく無視されても意味がないですし、会話のじゃまをしてもいいと思います。ですから同じ曲を再度

演奏する時に演奏のしかたを微妙に変える。その場の雰囲気合った心地よい音楽を奏でることがいちばん大切なことです。難しいですが、おもしろいし、やりがいがありますね」

20歳のときにフォークグループ『火の鳥』のベースボーカリストとしてプロデビュー。グループ解散後は、会社員やレコード店経営など数々の経歴を経た後、友人のすすめでイベントや店での演奏を始めた。ギタリストである上田さんがピアノに出会ったのはその頃。店にあったピアノで、独学で弾き語りを学んだ。「それが35歳のとき。何を始めるにも、遅すぎることはないのですよ」と上田さんは話す。聴くのも演奏するのも、ジャズからフォーク、ロックなど、音楽なら何でも好きだと言う。「そしていつも人の心を和やかにさせることを忘れずと思っています」。

現在、18歳の息子さんがミュージシャンになろうとしている。「年齢によるギャップは当然あります。ただ、音楽ですから世代に関係なく良い音楽は良いのです。そういう深いところを追求してほしい。僕自身は音楽バカですから、最終的に『音楽が好き』ということだけが残ればいいと思っています」。



谷川浩司王位獲得祝賀会 谷川浩司九段が10年ぶりに王位を獲得し、公式戦通算千勝を最少で達成。祝賀会が11月19日新神戸オリエンタルホテルで開かれた。矢田神戸市長のほか、歌手の錦織健さんらも祝いに駆け付けた



神戸レクイエムPART II開催 詩人の岡本真穂さんが、阪神・淡路大震災の詩を残すため、ハートフルコンサートを開いた。10月24日、六甲アイランドの神戸ベイシエラトンホテルにて、ウィーンアルカディアピアノ四重奏楽団を招待し、優雅に集った



芸術文化センター着工 阪急西宮北口駅南に建設される「芸術文化センター」(仮称)の建設工事の着手にあたり、11月12日安全祈願祭と起工式が行なわれた。センターは平成17年に開館が予定されている



平成14年11月3日 10時~16時  
第3回 誕生日フェスタ  
主催 誕生日ありかどう運動本部  
主会場 場所 体育館 入場無料!!



みんな仲間を盛り上げよう 知力ハンディキャップを負う人と交流し、お互いの理解を深めようという「第3回誕生日フェスタ」が、11月3日流通科学大学で開催。意見発表会やバンド演奏、さおり織りなどの体験教室、車いすダンスなどさまざまな催しが行なわれた



矢田市長と語る 神戸市長に就任して1年。矢田立郎市長を囲む会が、11月5日に新神戸オリエンタルホテルで行なわれた。経済人・関係者など多くの人々が集まった。「震災復興の困難時に最適な市長」と井戸敏三兵庫県知事の言葉に矢田市長もこころ



新湊川トンネル竣工 1月4日、新湊川災害復旧事業が完成し、記念式典と、新湊川トンネルの開通式、記念植樹が行なわれた。新湊川の川幅を広げ、河床を掘り、トンネルも大きく生まれ変わり、川の安全性が大きく向上した。



藤間莉佳子：大和三喜子ジョイントリサイタル 11月17日、兵庫県立美術館ミュージアムホールで「日本の世界を大和楽で踊る」をテーマに開催。上村松園の「序の舞」を名前の装いで藤間莉佳子が舞い、雪岱の「おせん」を大和三喜子が唄ったほか、中右瑛さんの浮世絵トークも



池田大作写真展 創価学会の関西国際センターにおいて、11月1日より池田大作写真展が開催された。草花や自然などを写した、池田大作氏の圧倒的なカメラアイに賞讃が



二紀展祝賀会 兵庫県二紀会神戸支部が、11月3日第56回二紀展祝賀会を東天紅で開催。平木美鶴さんが会員に、大西隆弘さんが初入選し、中西勝画伯、高崎研一郎画伯らから表彰を受けた。



「21世紀ライフスタイル革命」出版記念会 勁草書房より発売を記念し、11月10日ラッツセホールで出版記念会を開催。著者の板東慧（大阪産業大学経済学専攻教授）先生は「これからは生活文化を軸にした経済社会の創造を」と